
騎士の剣 <8人の騎士たち>

JOKER

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

騎士の剣 <8人の騎士たち>

【Zコード】

N4342M

【作者名】

JOKER

【あらすじ】

全て自作です。メインに騎士の物語となつており夢の中での騎士の物語という独創的な物語となつております。主人公のシードはいたつて普通の高校生ある日ふと見た夢でシードの真実を知る。それはシードは8人目の選ばれし騎士だった。全ての騎士はシードを含めて8人。それぞれの騎士の特殊な能力、それはいったいなんなのか!?

古から語り続けられている騎士の伝説、はるか昔騎士たちはそれぞれの地方の「守護神」とされていたが、ある日1人の騎士が善の道

から悪の道に走る。その騎士の目的とは一体なんなのか！？その裏
切つた騎士は謎の軍隊を率いて新たなる帝国を築いた。シードたち
は裏切つた騎士が率いる謎の軍隊を倒すこと誓つ。シードたち
と謎の軍隊との激しい戦いが今始まる！－！

？
プロローグ
(前書き)

？
プロローグ

？ プロローグ

あの日、僕はふと田舎めたれいは夢の世界であった。辺りを見渡すと草原が広がっていた。遠くに王国があるのが見えた。

？」と疑問に思い王国まで歩き始めた。

「あの王国は何だらう？」しかし、歩いても歩いても一向に近くならなかつた。「え？」と驚いた。

「なぜ近くならないんだ」と驚いていたとや。

前から少女が歩いてきた。

少女は僕に言った。「お待ちしておつまじたよシード殿」

シード

はなんの事か疑問に思つた。

「え？ 何の事ですか？」

「後でお話ししますわ」

ヒーリングの輪のよう

な物をくれた。

「つけてください」と言われ、僕は手首につけた。

「これを手首に

るといつの間にか瞬間移動をしたかのように気がついたらみ知らぬ場所にいた。

「ついてきて来てください」

シードは何が何だかわからなかつた。とにかくシードは少女について行つた。

しばらく歩いた、もう疲れ果てたとき田

の前に部屋の扉があつた。

「いらっしゃりにお入りください」

シードは疲れ果てて

部屋にあつたベッドの座つた。

「は〜疲れ

た

「シード殿まずは簡単な」説明をわたしていただきまーす

「はー」

「まーじーの場所はランダール王國といひ王國です。その中でもこゝは、^{パークトバリアキャッスル}最高司令部完全防衛城です」

「パークトバリアキャッスル？」

「はー。いわゆる、どんな攻撃も無効する城です。次にそのシード殿の手首につけている輪の事を説明させていただきますその輪は、こゝでは騎士専用輪^{ナイトリング}と申します」

「ナイトリングー？」

「はー。ナイトリングとは二つの秘密があります。一つは、こゝにいる城に入るときに必要とされます。身につけていない場合この城に入ることができません」

「あ

あ、だからさつきこゝら城のまつに歩いても近くならないわけだ

「はー。そのよつな守りがもほどこされであります。あともう一つの秘密はこの後に行われる集会でお話します」

「集会ー?」

「その集会つて何の集会?..」

「シード殿の歓迎会です」少女は冷静に答えた。

「歓迎会ー!？」シードは驚いた顔で言つた。

「はい。」このあと5時間後、集会が行われます。なので少し休んでいても構いませんが、遅刻なさらないようお願いします」

「ああ、分かつたけど場所は何処?」

「すいません。言い忘れていました。場所はこの部屋を出でずつと奥までまつすぐ進み、そこに分かれ道があるのでそこを右に進みます。そしてずつと奥に進むと大きな扉があるので、そこが集会場となつております」

「・・・わかった」シードは不安げに

答えた。

そして、少女はシードに詰め終わり部屋を出よつとしたときシードが少女に問いかけた

「君、名前なんてい

うの？」

「二一ナと

申しまや」

「じゃあ今から君の二一ナって呼んでいい？」

「

「はー。では失礼します」とここで部屋を出て行つた。

シードはベッドに寝転がりシードはつぶやいた

「二一ナか」

シードはいつの間にか眠つてしまっていた。

そして「これが全ての始まりであった。

続く

？ プロローグ（後書き）

これからも書き続けよといつも想つので、応援よろしくお願ひします。

?

現実（前書き）

?

現実

？ 現実

「シードは田嶋ましをけし起きた。『ああ朝か』

「シードは田嶋ましをけし起きた。『ああ朝か』

「せつまの夢何だつたんだりつ」

「ひてやばい、もうこんな時間ー学校遅刻しちやうー。」

シードはあわわてて制服に着替え、パンを一枚口にはさんで急いで学校に向かった。

「キンコンカンローン」学校の鐘が鳴った。

「ああ、これは遅刻だ」

シードは学校につき、自分のクラスのドアの前に立ち深呼吸をした。

「なんてつたつて、僕のクラスの担任の先生は鬼教師と言われている」

シードは教室の中に入つたとたん

「シードーーーお前遅刻じゃないかー」相変わらず雷のよいつな声が響き渡つた。

「シードーーーお前遅刻じゃないかー」相変わらず雷のよいつな声が響き渡つた。

シードは心の中で思った（はつまじかよー）

「分かりました・・・」

「よしーじゃあやつへこー。」

「はー・・・」

そして、シードは廊下10往復雑巾掛けを終えた。

「はー疲れた」

シードは教室に戻った。

「先生雑巾掛け終わりました」

「よしーじゃあ席に座れもう遅刻はするなよー。」

「はー・・・」

「ただいまー」

「おかえりー」

こんなことから始まり、部活も終えた後シードは家に帰った。

シードは風呂に入り夕食を食べ終わった。

「ああ、今日も疲れたなー」

シードは田舎まし時計をセットしてまた夢の世界に入つていった。

続

選ばれし騎士たち（前書き） ?

選ばれし騎士たち

？ 選ばれし騎士たち

僕はまた夢の世界にいた。

「ルルは何処だ？」

シードはベッドの上で眠ってしまっていた。

「前に見た夢と同じ場所だ。あれっここは城だ。でもなにか忘れる気がする。ああーそうだ集会だ！集会まであと何時間だ？つてあと1分しかない！まずいぞこれー！」

シードはあわてて部屋から出た。

「確かにこの道をずっととまつすぐ

シードはずつとまつすぐ走り分かれ道があつた。

「ルル、どうだっけ？ そつだ右だ！」

シードは右に曲がりずっとと奥に進み、そこには大きな扉があつた。

「ルルだ！」

シードはあわてて扉を開けた。

そしたら中は見たことがないくらい大きな集会場であつた。

奥に5人の高校生ぐらいの人たちがいた。その隣に一ーナがいた。

そしてさらに奥にこの城の王がかなり大きいイスに座り、隣に幹部らしき人がいた。

「遅いぞ8人目の騎士！」高校生ぐらいの女が言った。

「8人目の騎士？」シードは何の事だか分らなかつた。

「まあこちいらに来なさい8人目の騎士よ」王が冷静に言った。

「はつはい・・・」

シードは前に進み王の場所まで行つた。

「シードといつたかな？」

「はつはい・・・」

「君は選ばれし8人目の騎士だ。まあ今はそれだけでも把握して聞いてもらいたい」

「はつはい・・・」シードは心の中で（選ばれし8人目の騎士？）と思つていた。

「まあ急に言われてから理解できないのも仕方があるまい」とりあえずそちらの6人の所へ行きなさい」

「はつはい」

シードは6人の所へ行つた。

「まあそれぞれ自己紹介をしなさい」

「はい！じゃあ僕から2人目の騎士名前はラーム・スターです。よろしく！」

「じゃあ次は俺3人目の騎士名前はリーズ・ストロングだ。よろしく」

「じゃあ次私！4人目の騎士名前はホープ・リースです！よろしくね！」

「次私5人目の騎士名前はローズ・クラークだ。よろしく」

「私は6人目の騎士名前は二ーナ・フォースです。よろしくお願いします」

シードは心の中で思った（えつ！二ーナって騎士なの？）

「はつはい。僕の名前はシード・アルテマです。よろしくお願いします」

「よろしく！？」5人が答えた。

「ではわしも自己紹介といこう。わしはこのブランドール王国の王名前はグランサー・ヨーイスタークだ。よろしくシード君」

「はい。よろしくお願いします」

「そしてこのものが城の幹部イーブ・ラレスターだ

「イーブ・ラレスターです。よろしくシード君

「よろしくお願いします」

続

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4342m/>

騎士の剣 <8人の騎士たち>

2010年10月10日01時40分発行